

大綱作り 子供たちの手で

大仙・刈和野で新事業

農業体験 稲わら活用

大仙市刈和野地区で21日、「刈和野大綱米プロジェクト」がスタートした。地域の子供たちに農業体験を通して伝統行事「刈和野の大綱引き」の大綱づくりに積極的にいかかわってもらおう体験プログラム。大仙市が初めて企画し、大綱引きの後継者育成などの課題に地域を挙げて取り組む。



小雨が降るなか、田植えを行う児童生徒たち(21日、大仙市北野目)

刈和野の大綱引きは50年以上の歴史を誇る。地域の子供たちに農業体験を通して伝統行事「刈和野の大綱引き」の大綱づくりに積極的にいかかわってもらおう体験プログラム。大仙市が初めて企画し、大綱引きの後継者育成などの課題に地域を挙げて取り組む。

刈和野の大綱引きは50年以上の歴史を誇る。地域の子供たちに農業体験を通して伝統行事「刈和野の大綱引き」の大綱づくりに積極的にいかかわってもらおう体験プログラム。大仙市が初めて企画し、大綱引きの後継者育成などの課題に地域を挙げて取り組む。

の農事組合法人「刈和野大綱ファーム」や「刈和野大綱引保存会」などが協力する。

この日は午前、西仙北小学校5年の児童50人と西仙北中学校3年生43人、午後は西仙北高校の全校生徒75人が、約80坪の水田にあきたこまちの苗を植えた。秋には稲刈り、稲架掛け作業を行い、稲わらは大綱の製作に使用する。収穫した米は小中高校の授業で活用する。

西仙北中の小笠原理子さん(15)は「自由に苗を植えてよいと言われたので、みんなが楽しく田植えをすることができた。大綱の稲わらとなるように大きく育ててほしい」と語った。

刈和野大綱引保存会の今野幸宏会長(66)は「プロジェクトは来年以降も可能な限り続けたい。子供たちに地域への愛着をより一層持つてもらえたら」と期待した。